

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成27年11月24日	評価結果市町村受理日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様の能力に応じて無理のない範囲で、ご自分にできることをやっていただき、自信回復や認知症の進行が遅れることに繋がればという思いと、GH特有の少人数の生活の中で、孤立されないよう配慮しながらお世話させていただいています。ご家族にも気軽に来苑していただけるよう、ご意見ご要望なども話しやすい雰囲気作りに努め、ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が健康で充実した生活を送れるように利用者の意思を尊重して、出来る力を活かしたケアに取り組んでいる。また、拘束をしないケアの実践のために、それに伴うリスクについて家族の理解を得て、利用者の行動を見守る支援に努めている。地区社協のメンバーとして、互いに協力する関係を築き地域とのつながりを深めている。家族に面会に来てもらい一緒に過ごす時間を大切にして、家族との絆を継続できるよう働きかけている。管理者は職員の生活背景や体調を考慮して働きやすい職場づくりと注意することより自ら気付くように指導して本人の向上心を育てることに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、全体会議の際に全員で理念の唱和をし、ユニットでたてた目標は毎日、申し送り時に唱和して実践につなげている。	地域との関わりと利用者の視点にたった理念のもとに各ユニットごとに目標を立てている。会議で日々のケアを振り返り、利用者が生きがいをもって穏やかに暮らしているかを全職員で確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区社協の一員として、会議に出席したり、小学校の運動会を見学させてもらっている。また、季節の野菜をいただいたり、保育園の資源回収に協力したり交流の場をもっている。	民生委員に見学に来てもらったり、サロンで介護についての話をしたりしている。近隣の方からは野菜をもらうなど地域住民との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区で行われている「いきいきサロン」において、認知症の方を知る、また、予防についての勉強会に参加しアドバイスを言ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議でのご意見や内容について職員の全体会議でも報告し、サービスの向上に活かすようにしている。	法人の3事業所と合同で行った後、事業所ごとに意見交換を行っている。意見から事業所の場所がわかるよう配布する地図を作成した。アクシデントの状況報告書から内容の把握が出来て安心出来るとの意見も出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席していただき、事業所の実情について、よく理解していただいている。空床状況をお伝えし緊急入所の受け入れや困難事例の相談もしやすい関係が築けている。	手続き書類などの提出の際には、直接話をして信頼関係を築くようにしている。市から相談を受け、地域ケース検討会議に医師や地域包括支援センターの担当者と一緒に参加して困難事例の受け入れを検討した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、勉強会を実施したり、日頃のケアにおいても身体拘束をしないケアを実施している。	拘束をしないケアで生じるリスクを入居時に説明して同意を得ている。排泄や入浴時などでのかわり方や言葉かけも拘束にならないよう勉強会や会議で話し合っている。利用者の行動を見守りながら自由に過ごせるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、入社時等に高齢者虐待防止法における誓約書を交わしている。毎年、勉強会を実施し日頃においても虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際はどのような不安があるかを配慮しながら、それぞれの立場にたって説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より、意見が言いやすく相談しやすい関係作りを心掛けている。ご家族アンケートを実施したり、推進会議の出席も勧めている。	アンケートの実施時や面会時に、日々の様子などを伝えながら要望や意見を聞いている。携帯電話の使用時間の要望があり検討した。アンケートの集計を送付し意見などを求めるが、要望や意見は少ない。	意見を聞く機会を持つように努力はしているが、家族や利用者からの思いや要望などが率直に出る方法を検討し運営に活かす事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談、または日頃より意見を言いやすい環境、コミュニケーション作りにも努めている。	ホーム長と管理者は、日頃から要望や提案を聞き、年2回個人面談を行っている。また、ストレスチェックを実施して、働きやすい職場作りにも努めている。おむつの使い方や食形態の工夫などの提案を取り入れ改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や体調に配慮し、働きやすい勤務体制作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各研修への参加にて、職員のスキルアップができるようにしている。新人には担当職員がマニュアルに基づき指導し仕事や職場の雰囲気にも馴染めるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回のマネジメント会議の中で、勉強会を実施したり、市内のケアマネ連絡会への参加や、隣接している事業所とは日常的に交流・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にその方らしく暮らしていただけるためのシートを活用し、ニーズの把握に努め、サービスを提供する内容を説明することで、安心してご利用いただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の思いをしっかり把握し、説明するなど信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネやご家族、ご本人との面談において現状で一番良い方法を見出せるよう、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、施設での生活が充実したものになるよう、日常的に共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族はご本人にとって大切な存在であるので、絆がとぎれないよう、働きかけご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の理解・協力をいただきながら、ご本人の馴染みの理美容院や、お店、銀行などに行けるよう、環境作りや支援に努めている。	家族からの情報や利用者の話しから馴染みの場所や人を把握して関係が途切れないよう努めている。病院で知人に出会った時、事業所を伝え訪問してもらった。家族の協力を得てお参りや美容院に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら、席替えや、合同レクなどを通し、交流する機会を多く作るよう努め、関わりが困難な時には職員が仲を取り持つような支援をしている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による契約解除となっても、再入所の申込みをしていただき、退院後、ご家族がケアに困らないよう、経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から、思いを引き出したり、表情を観察、涙み取りながら、把握するように努めている。	入浴時や夜勤時などにも声かけをして意向を聞いている。表情や行動からも意思の把握に努めている。帰宅願望や風呂にゆっくりと入りたいなど、その日の思いを大切に、記録に残して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前までに携わってみえたケアマネや、ご本人・ご家族より、これまでの生活歴や価値観など暮らしについての情報収集をし、入所生活の中に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に身体状況や、生活の様子、精神状態の変化など記録し、申し送りなどを通して、職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議で全利用者様のモニタリングを行いケース会議の中で、意見、アイデアを出し合い、ご家族とも相談しながら、現状に即した計画作りをしている。	全職員で毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1回担当者会議を開いて、家族・職員・医師の意見を基に介護計画の見直しをしている。生活動作評価表、介護計画年間表を作成して1年の状態の変化を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録の再読を行い、利用者様一人一人の現状の把握、変化を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法律や契約内容に反しない範囲で可能な限り、柔軟な支援をしていく姿勢でとりにくんでいる。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会のメンバーにも入れていただき小学校・民生委員・市社協の方々とパイプラインをもつことで行事への参加がしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前や新規受診時には、ご本人やご家族の希望を伺い、主治医とも相談しながら、状況に適した医療を受けられるように連携を図っている。	入居前のかかりつけ医受診を基本としている。家族が付き添う時は、状態を紙面で伝え結果は口頭で伝えてもらっている。職員が同行することもある。急変時は家族と連絡を取りあって要望に添うよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での関わりの中で心身の状況を観察し、些細なことでも変調があった場合は報告し、連携を図っている。周辺施設のNSとも協力体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、できるだけ毎日、NSが顔を見せ安心していただけるように心かけている。入院中も利用者様の情報交換に努め、病院関係者とも良好な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設における終末期に向けた説明を行っている。利用者様の心身状況に応じて主治医とも相談しながら、ご本人やご家族とも話し合いをしながら、意向を伺い連携をとりながら、柔軟に支援させていただいている。	入居時に事業所の方針を説明して本人・家族の意思を確認している。状態の変化に応じて往診時に家族を交えて話し合い、意思の再確認をして方針を決めている。職員は、会議や申し送り時に方針や状態を話し合い終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルや緊急連絡網を作成し備えている。勉強会や消防署職員の指導の下、蘇生訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、火災の発生原因や時間帯、場所などをその都度、設定しなおし定期的に避難訓練、消火訓練を行っている。運営推進会議の折には地域の協力体制を呼びかけている。	夜間想定を含め、利用者と共に隣接する事業所と合同で避難訓練を行っている。訓練後に参加者と課題を話し合い、次回に繋げている。地域の方から「日中は若い人がいないが、出来ることは、させてもらいます」との意見もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、言葉使いには特に注意し利用者様を傷つけないように、ご本人の気持ちを大切に接している。	利用者に高圧的な言葉づかいや対応をしないように心掛けている。また、利用者が自由に発言出来る雰囲気づくりにも努めている。管理者は、職員の対応をその場で正すこともあるが、自ら気付けるよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しやすいように職員との信頼関係作りに努めている。利用者様の言われたことは否定せず、傾聴しながら表情や反応を見守りながら、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事がある際は参加の意思を確認し、強制はせず、ご本人の意思を優先している。その日の体調をみながらご本人の希望を尋ね、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は利用者様の要望に応じ、地域的美容師さんや馴染みの床屋さんに依頼している。着替えはご本人が着たい服と一緒に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時にご本人やご家族に嗜好調査をお願いし、ご希望に添えるよう努めている。家庭の雰囲気の中で食事ができるよう、楽しい会話にも努め、おしぼり作りやお膳拭きなど、利用者様の力量に応じてお手伝いをお願いしている。	野菜の下ごしらえやおやつ作りなど利用者の出来る力を活かしている。利用者の好みを聞いて献立を決めている。同じものを一緒に食べることを大切にして、話をしながら食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食器を選び、使いやすさ、食べやすさに配慮している。食事は見た目も大切であることから、色やバランスなどや盛り付けにも工夫している。お茶だけでなくあきのこないように、好みを伺いながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず実施している。お一人ずつの状態に応じて見守りや支援をさせていただいている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録より排泄リズムの把握をし、定期的な声掛け、トイレ誘導を行っている。失敗があっても傷つけないような配慮のある声掛けに努めている。	個々の排泄リズムを把握して、夜間もトイレで排泄出来るよう支援している。入退院を繰り返してオムツを使用する状態になっても少しずつはずす取り組みをして排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の援助や腹部マッサージ、温電法などを実施している。食物繊維を多く含む食材や、ヨーグルト、牛乳なども提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方のペースに合わせ、声掛けのタイミングに注意し、ゆったりとした時間を提供できるよう支援している。そして、その方に合った入浴方法を検討し、安心・安全な入浴になるよう努めている。	入浴回数・時間・順番など利用者の希望に合わせた支援をしている。機械浴があり、重度化した場合にも対応できる。入浴剤を使用したり、思いを聞いたり、好きな歌を唄うなどして入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを優先しながらも、活動的に過ごしていただけるよう支援している。利用様同士、心地よく交流ができるように職員は調整役をしている。気持ちよく就寝できるように居室の環境整備にも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更があった(増量・減量)場合、副作用や注意事項が申し送り簿に記入されており、周知徹底している。処方箋が所定の場所に保管されており、随時、確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク作業ではその方のできることをお手伝いしていただき、職員と一緒に季節の作品を作っている。折り紙や編み物、塗り絵などその方のしたいこと、できることを把握し、環境作りにも努めている。新聞折りや洗濯物たたみなど張り合いのある日々を過ごしていただけるよう分担をきめたりし		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々には、ご家族面会時、気分転換を兼ねた外出を依頼している。施設では月に1回、外出支援を行いドライブや食事会などで気分転換をしていただいている。	利用者の希望にそって散歩や喫茶店に出かけている。毎月の行事に、外出車椅子の人も一緒にドライブや外食・花見・初詣に出かけている。家族に協力してもらい面会時にも食事や買い物・銀行に出かけている。	

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他利用者様とのトラブルが生じないよう、ご家族と話し合い個々に支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じた支援を行っている。尚、携帯電話を所持されている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品作りをし、リビングに展示したり、季節の花を飾ったりし、季節感を感じていただいている。快適に過ごしていただけるよう、換気やエアコンによる室温調整に配慮している。	換気や加湿・温度調節をこまめに行って、気持ちよく過ごせるように配慮している。ソファの位置を変えて気分転換にも心掛けています。季節を感じられるよう利用者と一緒に飾り物を作ったり、職員や家族からの花を活けたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室コーナー、掘炬燵などで気の合う利用者様同士で談笑されたり、また、一人の時間をゆったりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が家で使用されていた家具などを持ち込んでいただき、居心地のよい馴染みのものがある安心感のある居室作りを心がけている。ご自分の手創りの作品やご家族の写真などを飾って、癒しを感じていただけるような配慮をしている。	入居時に馴染みの物の大切さを説明して使用していた机・椅子などを持参してもらっている。家族の写真や趣味の作品・花などを飾ったり、日記や習字など書いたり、習慣を活かした居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2シートを活用して、残存機能を把握した上で、利用者様が安心・安全に自立した生活が送れるよう支援させていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成27年11月24日	評価結果市町村受理日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、全体会議の際は全員で理念の唱和をし、ユニットでたてた目標は毎日、申し送り時に唱和して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区社協の一員として、会議に出席したり、小学校の運動会を見学させてもらっている。また、季節の野菜をいただいたりして交流もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区で行われている「いきいきサロン」において認知症の方を知るまた、予防についての勉強会に参加しアドバイスを行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議でのご意見や内容について職員の全体会議でも報告し、サービス向上に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席していただき、事業所の実情について、よく理解していただいている。空床状況をお伝えし緊急入所の受け入れや困難事例の相談もしやすい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、勉強会を実施したり、日頃のケアにおいても、身体拘束シナイックケアを意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、入社時などに高齢者虐待防止法における誓約書を交わしている。毎年、勉強会を実施し、日頃においても虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際にはどのような不安があるかを配慮しながら、それぞれの立場に立って説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より、意見が言いやすく、相談しやすい関係作りを心がけている。ご家族アンケートを実施したり、推進会議の出席も勧めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談、または日頃より意見を言いやすい環境、コミュニケーション作りを努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や体調に配慮し、働きやすい勤務体制作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各研修への参加にて、職員のスキルアップができるようにしている。新人には担当職員がマニュアルに基づき指導し、仕事や職場の雰囲気にも馴染めるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のマネジメント会議の中で、勉強会を実施したり、市内のケアマネ連絡会への参加や、隣接している事業所とは日常的に交流・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にその方らしく暮らしていただけるためのシートを活用し、ニーズの把握に努め、サービスを提供する内容を説明することで、安心してご利用いただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の思いをしっかり把握し、説明するなど信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネやご家族、ご本人との面談において現状で一番良い方法を見出せるよう、柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、施設での生活が充実したものになるよう、日常的に共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族はご本人にとって大切な存在であるので、絆がとぎれないよう、働きかけご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の理解・協力をいただきながら、ご本人の馴染みの理美容院や、お店・銀行などに行けるよう、環境作りや支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら、席替えや合同レクなどを通し、交流する機会を多く作るよう努め、関わりが困難な時には職員が仲を取り持つような支援をしている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による契約解除となっても、再入所の申込みをしていただき、退院後、ご家族がケアに困らないよう、経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から、思いを引き出したり、表情を観察、汲み取りながら、把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前までに携わってみえたケアマネや、ご本人・ご家族より、これまでの生活歴や価値観など暮らしについての情報収集をし、入所生活の中に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に身体状況や、生活の様子、精神状態の変化などを記録し、申し送りなどを通して、職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議で全利用者様のモニタリングを行いケース会議の中で、意見・アイデアなどを出し合いご家族とも相談しながら、現状に即した計画作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録の再読を行い、利用者様一人一人の現状の把握、変化を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法律や契約内容に反しない範囲で可能な限り、柔軟な支援をしていく姿勢で取り組んでいる。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会のメンバーにも入れていただき、小学校・民生委員・市社協の方々とのパイプラインを持つことで行事への参加がしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前や新規受診時には、ご本人やご家族の希望を伺い、主治医とも相談しながら状況に適した医療が受けられるように連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での関わりの中で心身の状況を把握し、些細なことでも変調があった場合は報告し、連携を図っている。周辺施設のNSとも協力体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、できるだけ毎日、NSが顔を見せ安心していただけるように心がけている。入院中も利用者様の情報交換に努め、病院関係者とも良好な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設における終末期に向けた説明を行っている。利用者様の心身状況に応じて主治医とも相談しながら、ご本人やご家族とも話し合いをしながら、意向を伺い連携を取りながら、柔軟に支援させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルや緊急連絡網を作成し、備えている。勉強会や消防署職員の指導の下、蘇生訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、火災の発生原因や時間帯、場所などをその都度、設定し直し定期的に避難訓練、消火訓練を行っている。運営推進会議の折には地域の協力体制を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ敬語を使うように心がけているが、方言や昔からの言い回しなどをあえて使用するこもある。居室で過ごされる時は、室内環境に配慮し必要に応じナースコールでの対応をさせていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、利用者様と接する中で思いを傾聴する機会を作ったり、思いを表しやすい雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で習慣化されていることは、そのまま維持できるよう支援させていただいている。意思表示が困難な利用者様に対しては、その都度、声掛けを行いできるだけ、ご本人の思いを汲み取れるよう支援させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣服の選択、外出時の帽子、小物など好みの物を身に付けていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けはほとんどできないがおやつと一緒に作ったり、昼食時は利用者様と職員が同じテーブルで会話をしながら、見守りや一部介助を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様によって提供する食事量、水分量を把握し、摂取量を記録し、確保できるように支援している。体重減少が顕著な補助食品の提供や、義歯の不具合などがある場合は歯科医師と連携をとり、往診にてみていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・含嗽・義歯洗浄や舌苔の除去などをおこなっている。それぞれおれの能力を活かすよう声掛け、一部介助を行っている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄リズムを把握し、声掛け誘導を行っている。利用者様の動きや仕草などに便意を察して声掛け、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く含む食材を提供し、水分は摂取量を把握し、個々に必要な水分量を確保している。毎日の習慣として、リズム体操、個別による苑内外での散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望や時間を合わせ、できるだけゆったりと入っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は午睡をされる方、身体状況に応じその都度、休息が必要な方など状態に合わせて行っている。夜間は照明・音・室温調整・加湿など環境整備を行い、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、複数確認(職員・ご本人も含む)毎日、ほぼ定時にバイタル測定や必要に応じて、再検を行う。日頃の各利用者様の言動・表情・ADLの状態、排泄状況を把握し変化があれば、NSに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては、おしぼりたたみ、新聞折りなど日々の作業や体操の号令などをしていただいている。毎夕の晩酌、塗り絵、毎月の両ユニットの合同レクやカラオケ、読み聞かせのボランティアの方にもお越しいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	役割としては、おしぼりたたみ、新聞折りなど日々の作業や体操の号令などをしていただいている。毎夕の晩酌、塗り絵、毎月の両ユニットの合同レクやカラオケ、読み聞かせのボランティアの方にもお越しいただいている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他利用者様とのトラブルが生じないよう、ご本人、ご家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、玄関前で野菜を育て、水やりなどを利用者様にもお手伝いしていただきながら、季節感を味わっていただいている。換気やエアコンによる室温調整など、快適に過ごしていただけるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや和室コーナーの畳、玄関ホールに設置してある椅子などで、気の合った利用者同士が会話されたり、通常はユニット毎に別れておられるが一緒に展示してある作品や写真を眺めたり、また、一人のじかんをゆったり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご自宅で使い慣れた馴染みのものや、思い出の品などを持ち寄っていただき、昔のご本人やご家族との写真などを飾り付け、楽しみや癒しを感じていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2シートを活用し、残存機能を把握した上で、利用者様が安心して安全に自立した生活が送れるように工夫している。		